

## 修士論文タイトル例

- 地方公営企業の新会計制度が民営化に及ぼす影響—大阪市水道局の事例を取り上げて—
- コーポレートガバナンスが日本企業のコストの下方硬直性に与える影響
- 海外進出日系企業の雇用問題に関する一考察
- 従業員満足度に影響を与えるインターナル・マーケティング・ミックスの特定—既存尺度の再検討を通じて—
- コンテンツ産業における競争優位の再構築とイノベーション: ネットフリックスを事例とし
- アート・プロジェクトにおける価値共創—ベネッセアートサイト直島を事例として—
- 価値共創が顧客の経験価値に及ぼす影響
- 小売国際化における埋め込み性の検討—無印良品を素材として
- デザイン・マネジメントの視点から見る地域ブランドの構築—地域ブランドとしての「京野菜」の実証研究を中心に
- PM型リーダーシップが部下のワーク・ファミリー・バランスに与える影響
- オムニチャネルの考察—ビジネスモデルの視点から
- 文化遺産観光地ブランド力の向上についての研究—山西省雲崗石窟を例にして
- 両面的なオンラインレビューの有効性: 消費者の購買意思決定段階の違いに着目して
- 日本企業の雇用慣行と留学生の就職問題について—中国留学生を対象として—
- 現代レジャー消費における文脈に関する考察—東京ディズニーランド、ユニバーサルスタジオジャパンの比較を中心に—
- 中国における委託融資の規制改革とリスクの移転
- 倫理的消費における記述的規範の影響に関する一考察—応援消費を事例に—
- Fintechが中国の銀行の預金業務に与える影響についての実証分析—余额宝を例に
- 戦略提携がビジネスモデルに対する影響: ユニクロのケースを中心に
- 日本の女性管理職に関する研究—中国の女性管理職に対するインタビュー調査を通じて—
- 経験型の旅行を実現するために旅行書店の役割
- レビューが消費者の購買意思決定に与える影響—消費者の製品関与度に着目して—
- インターネット企業の企業境界についての理論分析—パーソナルデータに関する分析
- 中国市場の成長と日本紙おむつ産業の技術競争力
- 日系自動車産業の開発現地化と競争優位の関連性—東風日産を事例として—
- ビデオゲーム産業におけるプラットフォームの変遷: 任天堂を中心に
- 企業倫理を浸透・定着させるための統合的アプローチに関する事例研究—神戸製鋼所と雪印種苗を事例として—
- 従業員の知識吸収能力における内発的モチベーションの促進要因に関する実証分析
- 中国のSNSにおけるCSR情報開示に対するステークホルダーの反応
- 規制緩和から見た外資系銀行の業績変動
- ダイバーシティ・マネジメントの的中比較
- ファーウェイによるスマートフォン市場の獲得とチップ(SoC)開発
- 消費者心理モデルの有効性の検証及び消費者の分類
- アリババのイノベーション創出とビジネス・エコシステムの関係性分析
- 標準化と適応化の観点から見た日本メーカー企業の国際展開におけるマーケティング活動の優位性
- 日本製造業の内部研究開発活動の決定要因分析—資金的な要素の影響—
- 在中日系企業の人材確保に関する考察

## 2021年度入学 立命館大学大学院 経営学研究科 入学試験日程

	実施月	入試方式	出願期間	試験日	予備日
博士課程前期課程	2020年10月実施	一般入試 外国人留学生入試 学内進学入試 飛び級入試 APU特別受入入試	2020年9月9日(水)～9月23日(水)	10月24日(土)	10月31日(土)
	2021年2月実施	一般入試 外国人留学生入試 学内進学入試 飛び級入試 APU特別受入入試 他研究科生対象学内進学入試 大連外国語大学特別飛び級入試 对外経済貿易大学特別飛び級入試	2020年12月18日(金)～2021年1月8日(金)	2月6日(土)	2月13日(土)
後博士課程	2020年10月実施	一般入試	2020年9月9日(水)～9月23日(水)	10月24日(土)	10月31日(土)
	2021年2月実施	一般入試	2020年12月18日(金)～2021年1月8日(金)	2月6日(土)	2月13日(土)

## 経営学研究科Webサイト

<http://www.ritsumei.ac.jp/gsba/>



お問い合わせ先 **立命館大学経営学部事務室**  
 E-mail: gsba-1@st.ritsumei.ac.jp  
 住所: 〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150  
 TEL: 072-665-2090 FAX: 072-665-2099

2020年3月発行



2021年度

立命館大学 大学院

# 経営学研究科

企業経営専攻  
 博士課程前期課程・後期課程

Academic × Practice

—その先にある、人と企業と社会の未来を見つめる。



## ごあいさつ



立命館大学 大学院  
経営学研究科長  
小久保 みどり

グローバル市場の激動の中で、多くの国では好景気と通貨危機、財政危機が併存し、少子高齢化という社会変動の中で、雇用問題、貧困問題や企業倫理にかかわる問題があらためて社会科学の大きな課題となっています。

立命館大学経営学部および大学院経営学研究科は創立以来半世紀にわたる歴史の流れの中で世界と日本社会とにおける企業組織のあり方について研究を重ねてきました。企業や金融の変化やイノベーションを追跡し、企業を取り巻く環境として自然と社会や政治との関係に注目し、アントレプレナーシップをはじめとして企業組織と人間のあたらしい関係を追究してきました。

21世紀の地球市民として社会に貢献する力を備えた卒業生を社会におくりだすため、立命館大学大学院経営学研究科は、経営学教育と研究とをたえずリンクさせ、より充実した教育・研究条件を創出していきたくと考えています。

1966年の創設以来、本研究科は数多くのすぐれた研究者や高度職業人を広く社会に輩出してきました。本研究科の修了生は、留学後本国で大学や企業で活躍する国際学生を含め、全国各地で教育・研究に携わる大学教員、会計士などの高度専門職、そして研究成果

を活かして実際の企業経営に関わって実践する多くの社会人として、経営学と実社会のそれぞれの発展に貢献してきたものと確信しています。

このような成果を活かしつつ、本研究科では、研究を通して能力を高め、キャリアの希望に応じて職業人としていっそう広く多様に社会で活躍できるようなカリキュラムと教学システムを用意しています。もちろん、経営学研究者養成についても、これまで同様本研究科が果たすべき大きな役割があります。

前期課程では、2013年度よりグローバル化にふさわしく標準化され、専門性に応じた選択が可能となるカリキュラムを実施しています。

博士課程後期課程では、将来の進路を教育・研究職に定める院生たちがオリジナルな研究に基づき博士学位論文を完成するという目的を達成できるように、システムティックな指導と援助の体制を構築しています。

企業経営の問題に深い関心を持ち、それを研究して社会に貢献してみたいと思う熱意と意欲のあるみなさんは、立命館大学大学院経営学研究科にぜひお越しください。わたしたちはみなさんを大いに歓迎します。

## 経営学研究科の教育目標

### 人材育成目的

#### ■前期課程

経営学研究科は、博士課程前期課程において、経営学に関する高度な専門知識および、会計や統計的処理、語学などに関する高度な技能をもち、組織の中で適切に知識と技能を活用できる人材を育成します。併せて、社会の要請に応え、正義と倫理をもち、グローバル化する社会の中で組織のリーダーシップを発揮しうる人間を育成します。

### 学生受け入れ方針

経営学研究科は、人材育成目的を実現するために、前期課程および後期課程それぞれの入学時点において下記の能力を有する学生を求めます。

#### ■前期課程

- 1) 経営学の知識を基礎に、専門分野を入学後早い段階から決定し、専門的で高度な学術レベルの研究を進めていくことが可能な基礎的能力を有していること。また研究を進める上で必要な会計・統計的処理・語学を学修していくことのできる基礎的能力を有していること。
- 2) 国際的な視野で経営学を研究しうる能力を有していること。

#### ■後期課程

経営学研究科は、博士課程後期課程において、経営学分野の研究活動を行うに必要な高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続できる自立した研究者を育成します。

#### ■後期課程

後期課程は、指導教員による研究指導と研究交流を通じて、自立した研究者として研究活動を行うに必要な高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続していく可能性を有していること。

### 教育課程編成・実施方針

#### ■前期課程

研究者養成、高度職業人養成に即した科目を配置し、系統的履修を促進するカリキュラム作りを行っています。

カリキュラムは、論理的な思考力と定性的・定量的な調査能力をいっそう高めるために、基幹科目群と展開科目群を充実させるとともに、研究方法に関わる科目群と演習系論文指導科目群の履修を重視した編成となっています。

1回生からの計画的学修により、経営学に関する理論の修得、情報収集・分析手法の獲得など総合的な学力を身につけます。併せて、外国文献研究または英語開講科目を受講することにより、英語文献レビューと英語での学修を進めます。

2回生では、1回生時に修得した専門知識をもとに、修士論文の執筆が本格化します。2回生春学期には中間報告会にて研究経過を報告し、2回生秋学期に研究成果を修士論文として仕上げます。

#### ■後期課程

後期課程では、前期課程における研究を継続して研究論文を執筆し、学会誌への掲載や、学会での報告などによって研究を深化させ、最終目標として博士学位論文を仕上げ、課程博士の学位を取得します。

1・2回生では、年度初めに提出する「研究計画書」に基づいて一貫した研究を行い、課程博士にふさわしい研究成果が生まれることが求められます。

2回生7月頃に博士学位予備論文(博士学位授与申請時において必要とする主題に関する論文3点のうち1点に相当する論文)を提出し、これに基づき9月頃に「博士候補者資格認定発表会」で発表を行います。発表会では、予備審査委員による審査が行われ、審査に合格した者は、博士候補者資格に認定されたものとして、博士学位授与申請が可能となります。

3回生では、年度初めに、研究の目的、研究の進捗状況、論文の基本構想、論文完成の見通し等を綿密に記した「博士学位論文執筆計画書」を提出します。さらに、博士候補者資格に認定されたものは、10月頃に「博士学位論文最終報告会」で報告を行い、研究成果を博士学位論文として仕上げ、指導教員の了解を得た上で、12月に博士学位授与申請(博士学位論文の提出)を行います。



# 立命館大学大学院 経営学研究科の力

## あなたの可能性を 経営学研究科で伸ばしてみませんか

立命館大学大学院 経営学研究科では、これまでの経営学の体系的な学びを深めることに加え、「これからの経営学の可能性」を追求しています。そのために、世界・日本の学術・研究をリードする教授陣と実践的なプログラムを用意しています。あなたの将来の可能性をさらにここで伸ばしてみませんか？



## Research Career

### リサーチキャリアを築く

立命館大学大学院 経営学研究科では、これまで多数の優秀な経営学研究者を育成してきました。立命館大学だけでなく、多くの大学の研究・教育の場において活躍されています。また、公認会計士・税理士などのスペシャリストの育成も行い、修了生は社会の様々な領域で活躍しています。

本研究科では、これまでの長い研究・教育と優秀な修了生を輩出してきた実績に基づき、次世代の研究者・スペシャリストになるためのリサーチキャリアを構築できます。あなたも次世代の研究者・スペシャリストになり、将来の社会で活躍できるキャリアを身につけませんか？

## 大学の研究・教育の場で 活躍する修了生



大井 達雄先生  
和歌山大学 教授  
[専門分野]  
観光統計、  
企業不動産マネジメント



苗 苗先生  
立命館大学 准教授  
[研究分野]  
マーケティング、  
小売業の国際化



安藤 拓生先生  
東洋学園大学 専任講師  
[研究分野]  
デザインマネジメント、  
経営戦略

## Design Management

### デザイン・マネジメント研究で日本をリードする

Apple社などに代表されるデザインを戦略の中心に置いた企業の台頭により、今やデザインが企業の競争優位を高める重要な経営資源となっています。このデザイン・マネジメント分野は、企業での実務が先行しており、体系的な学術研究を行う機関は国内にはまだほとんどありません。この研究分野をリードしているのが、立命館大学大学院 経営学研究科です。

大企業との協働における製品開発はもちろん、地域コミュニティの再生・創造、伝統産業の再活性化、先進的な技術やサービスを推進する中小企業との連携をもとに、実践的な研究と教育に取り組んでいます。特に本研究科は、EUのイノベーション政策において取り入れられている「デザイン・ドリブン・イノベーション戦略」について、イタリア・ミラノ工科大学との連携のもと、日本で唯一、理論的・実践的に研究・教育している大学院です。

さらに、「立命館大学DML (Design Management Lab)」や「イノベーション・アーキテクト養成プログラム (EDGE+R) (文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業」採択事業)」と連携し、研究と実践的な教育の高度化をはかります。



●サポート教員  
後藤 智准教授  
ミラノ工科大学ほか海外研究機関との国際共同研究によって、デザイン・シンキング理論から得られた知見を日本社会および企業経営に展開する事業を進めている。

## Data Analysis

### データから新しい意味を読み解く

AI (人工知能)、ビッグデータ、IoTの時代、数字に強い人材が強く求められています。人文・社会科学分野でも、膨大なデータを統計学的に解析した数値から因果関係を発見したり、そこから意味を読み取る力が必要とされています。

立命館大学大学院 経営学研究科では、統計学1・2、研究方法論、特殊講義Ⅱ (量的調査法)・(計量経済学入門) など、データから意味を発見し・新しい理論を構築する科目とゼミがそろい、少人数でしっかりと能力を身につけることができます。本研究科で、財務・マーケティングに関するデータを学術的に分析できる力によって、今までの世の中になかったような新しいビジネスを発見し、創造することのできる人材になりませんか？



●サポート教員  
田中 力教授  
統計調査力および統計利用に関する社会統計学的研究力を育成。



三谷 英貴教授  
資本市場とコーポレート・ファイナンスとの間の動態関係を明らかにする研究を進める。

金融分析：播磨谷浩三 教授、情報分析：龍博 教授、マーケティング情報分析：金昌柱 教授 など

## Glocal

### グローバル人材を目指す

立命館大学大学院 経営学研究科では、グローバル人材になるための10科目におよぶ基礎から高度な英語専門科目 (特殊講義を含む) を擁すると同時に、地域に根ざした中小企業、観光、ホスピタリティ・マネジメント、デザイン・マネジメント、環境マネジメントなど世界と日本のローカル (地方) を担う人材を育成するゼミや講義科目も擁しています。

「グローバル人材」とは、国際社会で通用する能力やグローバルな視点を持ちながら、世界各国や日本の地域社会・地域経済 (ローカル) の活性化および持続的発展に貢献する人材です。グローバル化を担うリーダーとして活躍したり、地域の魅力を世界に発信して地域と世界のマーケットとの架け橋になったりするなど、将来の世界および日本の社会と地域経済を創る新しい人材像として期待されています。



●サポート教員  
RAUPACH SUMIYA JORG 教授  
再生可能エネルギー事業が地域に与える経済効果に着目した研究を進める。日本シュタッドベルケネットワーク代表理事。



田中 幹大教授  
中小企業の自立性の拡大と事業継承問題の解消に提言するような、日本の中小企業の未来を切り開く指針を示すための研究を進める。

観光分野：石崎祥之 教授、ホスピタリティ分野：近藤宏一 教授、アントレプレナー分野：黒木正樹 教授、異文化経営分野：SCHLUNZE ROLF DIETER 教授、産業心理分野：小久保みどり 教授、原発の会計問題：金森絵里 教授、環境会計：東健太郎 教授、非営利組織論：小島愛 教授、経営倫理論：劉慶紅 教授、技術と公害問題：中村真悟 准教授 など。

## SMEs Management

### 中小企業の経営者になるために

立命館大学経営学部と経営学研究科では、2018年より大阪府中小企業家同友会との連携協力協定を締結し、立命館で広く事業継承教育を行うために、立命館大学事業継承塾 (塾長：経営学部 長・経営学研究科長) を創設しました。

2019年度は大阪府中小企業家同友会より優れた中小企業経営者をお招きした特殊講義を開講し、事業継承教育を行うと同時に、中小企業課題解決コンテストや社史コンテストなどを行いました。これらの取り組みは、広く注目を集め、日本経済新聞や読売新聞などでも記事として掲載していただきました。

2020年度には、これまでの取り組みを発展させながら、さらに立命館大学事業継承塾 (事業継承教育) アドバイザリーボードを設けると同時に、東アジア全体を視野に収める国際学生の事業継承者・スタートアップ起業家の育成を図っていく予定です。





# キャリアビジョンをかなえる理論×実践

(Academic) (Practice)

大学院での学修は、修士論文の作成が集大成となっていますが、修士論文を作成するためには、1回生からの計画的学修により専門知識の修得や理論の修得、情報収集・分析手法の獲得など総合的な学力を身につける必要があります。

本研究科のカリキュラムは、実際のリサーチ能力と深い思考力をいっそう高めるために、基幹科目群、展開科目群、研究展開科目群を充実するとともに、研究方法に関わる科目群と研究指導科目群の履修を重視した編成となっています。

下記、学修プロセス図のように、各科目群から各自のキャリアビジョンに合わせて必要な科目を学修し、「統計学1」「研究方法論」「特別演習1,2」を含んで計30単位以上の単位取得をするとともに、修士論文執筆に必要な研究指導を受け、修士論文の審査に合格することによって、「修士(経営学)」の学位が授与されます。

## ●前期課程での学修プロセス

1回生	
第1 Semester (春学期)	第2 Semester (秋学期)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究テーマの設定および先行研究のレビュー</li> <li>●専門知識の修得</li> <li>●情報収集・分析手法の獲得</li> <li>●英語開講科目の受講による英語運用スキルの向上</li> </ul>	

また、経営学研究科では、理論(Academic)と実践(Practice)を高度に融合させた教育を指向しています。たとえ研究者を目指す方であっても、アカデミックな理論に偏ることなく、実際のビジネスの現場を知り、高度な専門力量・研究力量をつけることが求められます。

具体的には各界最前線で活躍する客員教授や講師、ゲストスピーカーを招聘して講義を行います。このような実務界からもたらされる新鮮な事例をもとに討論を行い、これを学問研究の先端をゆく講師陣が理論的に裏付けるというアプローチをとることにより、高度な力量や問題解決能力を身につけるとともに、研究者としての素養を磨くことができます。

2回生	
第3 Semester (春学期)	第4 Semester (秋学期)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究課題と研究対象の限定</li> <li>●調査仮説の設定・調査・分析</li> <li>●中間報告会での研究経過報告</li> <li>●修士論文の完成</li> </ul>	

## ■経営学研究科博士課程前期課程開設科目一覧

科目群	科目名	単位数
基幹科目	経営史I (アジア・日本)	2
	競争戦略	2
	マーケティング	2
	生産マネジメント	2
	組織科学	2
	経営財務	2
	会計学	2
展開科目	ビジネス・エコノミクス	2
	アントレプレナーシップ	2
	金融・証券	2
	経営史II (欧米)	2
	ビジネス倫理	2
	人的資源管理	2
	財務会計	2
研究展開科目	企業会計	2
	技術経営・戦略研究	2
	マーケティング研究	2
	組織・人事研究	2
	国際ビジネス研究	2
	会計学研究	2
	ファイナンス研究	2
デザイン・マネジメント研究	2	

科目群	科目名	単位数
研究方法科目	統計学1	2
	統計学2	2
	研究方法論	2
	外国文献研究I~IV	各1
	アカデミックライティング ※留学生対象	2
英語開講科目	International Business I、II	各2
	Finance	2
	Marketing	2
	International HRM	2
	Environmental Management	2
	Business Economics	2
キャリア開発科目	大学院コーオプ演習	2
	特別演習1,2	各2
研究指導科目	特別演習1,2	各2
	Special Seminar 1,2 ※英語基準留学生用	各2

■年度により、開講となる科目があります。  
 ■「特殊講義I~X」および「Special Lecture」は年度により、テーマが異なる場合があります。

## NEW

### ■院生のニーズから生まれた新規授業

経営学研究科博士課程前期課程のカリキュラムをさらに魅力的なものにするため、2019年度より以下の2つの授業を開設しています。

どちらも経営学研究科院生のニーズから生まれた経営学研究科ならではの授業です。

※2019年度の開講実績です。2020年度以降については変更の可能性があります。ご了承下さい。

#### 特殊講義II (質的調査法)



担当教員  
吉田 満梨 准教授

経営学研究科の修士論文に取り組む上で、ケーススタディ(事例研究)を採用する院生が多く存在します。しかし、調査対象について、単にインターネットや新聞雑誌等から集めた2次データを組み合わせれば、研究に必要な記述としてのケース(事例)を書けるわけでは

ではなく、量的調査法にもとづく実証の方がふさわしい場合もあります。そこで本授業では、ケーススタディを中心に質的調査の特性を理解し、定性的な記述によって理論的な貢献を導くことができるような、適切な調査設計の実現につなげます。

#### ●講義内容

本講義では、リサーチデザインとしてのケーススタディ(事例研究)の特徴と、実際に調査設計・実施のために必要な知識及び技能について学びます。ケーススタディの方法論的位置づけ、代替的な方法論との関係性、具体的なケーススタディの先行研究を通じて理解し、自らのケーススタディを用いた研究論文の調査設計ができるようになることを目指します。

	講義テーマ	キーワードなど
1講	事例研究とは何か	リサーチデザインとしての事例研究の特徴
2講	事例研究への着手	研究課題の設定、対象ケースの選定、調査計画の作成
3講	データ収集の方法	二次データの収集、一次データの収集
4講	インタビュー調査	構造化・半構造化・非構造化、フォーカスグループ
5講	エスノグラフィ・参与観察	厚い記述、再帰性
6講	データ分析の方法(1)	グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)、KJ法
7講	データ分析の方法(2)	エスノメソドロジー、会話分析
8講	データ分析の方法(3)	言説分析、内容分析、アクションリサーチ
9~14講	事例研究の実践	個人・グループで調査をしてきた事例研究について発表、質疑応答
15講	総括	

#### 特殊講義II (量的調査法)



担当教員  
寺崎 新一郎 准教授

昨今、大学院生、中でもマーケティング分野を専攻する学生が学位論文を執筆するにあたり、定量的なデータを用いて統計解析を行うケースが以前にも増して多くなっています。そこで、そうしたデータの取り

扱い・加工方法やデータ分析を行うための統計解析技法、さらには分析結果の解釈方法を実践的に習得したいという学生のニーズに対応するため、本授業を開設することになりました。

#### ●講義内容

本講義では、量的調査法の基礎的な概念に加えて、その活用を具体的な方法に則して学びます。各回には学んだことを深く理解するための質問が設けられています。演習は、自らの設定した課題に取り組むための予行練習として行われ、自発的な参加が求められます。本講義を通して、経験や勘ではなく、あくまで量的調査法にもとづく判断を身につけることができ、学術研究や公的調査、民間企業における実務等において大きな強みとなります。

	講義テーマ	キーワードなど
1講	量的調査法の面白さ	量的調査法とは何か、量的調査法の利用方法、量的調査法の運用例
2講	リサーチデザイン	効果的な説得、リサーチ・デザイン、仮説構築
3講	仮説検証	仮説検証、統計的検定とその手順
4講	サンプリング	センサスカサンプリングか、サンプリング・プロセス、サンプリングにおける留意事項
5講	調査票の作成	質問紙調査の目的、質問票の回答形式、質問票の作成、質問票の作成で留意すべきこと
6講	グラフ	グラフの種類と描き方、グラフをどう読むか、クロス集計表の利用
7講	基本統計量(1)	平均、分散、標準偏差、平均と標準偏差の適用例
8講	基本統計量(2)	中央値、最頻値、尖度、歪度
9講	相関分析	相関分析とは何か、相関関係の強さと相関係数、疑似相関
10講	順位相関係数の検定	スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数
11講	カイ二乗検定	カイ検定の前提となる概念(期待度数と観測度数)、カイ二乗検定とは(独立性検定、適合度検定)、カイ二乗検定の進め方(χ2値、自由度、有意水準、χ2分布表)
12講	t検定	t検定とは何か、t検定の分析ステップ、t検定における留意点、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定、データの対応関係
13講	分散分析	分散分析とは何か、分散分析の手順、二元配置の分散分析、交互作用
14講	回帰分析	回帰分析の概要、回帰分析はどのような関係の分析に適しているのか、回帰分析の結果を意思決定に結び付けていく方法、多重共線性と説明変数間の共変動、数量化理論
15講	まとめ	講義全体の復習、期末レポートに備えたリサーチ・デザインの構築、リサーチ・デザインに関するクラスメイトとのディスカッション



## Voice 1

### 経営学研究科での実践的な学び

私が大学院に進学した動機は、アウトプットを中心とした少人数の講義形式や管理会計のアカデミックな視点での学習に魅力を感じたことです。自身の研究では、経営者の意思決定がコストや利益に与える影響についてコーポレートガバナンスの観点から分析しています。

また、企業が抱える課題を解決する実践型講義「コーポ演習」でチームリーダーを務めたことは、私の中で有意義な経験となりました。約半年の期間をかけて課題分析やフィールド調査を実施し、最終的に企業役員の方々の前で改善提案を行いました。提案を完成させるまでにチーム内で意見が対立することも多く、課題の潜在的な背景を理解し提案の軸を定めるには悪戦苦闘しました。こうした正解のない問題に対して「自分の力で情報を集め整理し、アウトプットする力」は、就職の際にも役に立ちましたし今後ますます必要とされる力だと思えます。

大学院では挑戦したいことがある人を支えてくれる環境が整っています。より困難な課題の解決に取り組める実践的な活動と学びを求める人におすすめできる環境です。



井川 航さん 2020年3月経営学研究科  
博士課程前期課程修了  
立命館大学 経営学部卒業  
新晃工業株式会社にて内定

修士論文テーマ：コーポレートガバナンスが日本企業の  
コストの下方硬直性に与える影響

## Voice 2

### 中小企業の海外進出と継続的發展をサポート

中小企業の経営をサポートする企業で、企業の海外進出や海外の販路開拓の支援を担当しています。海外進出に成功している日本企業を訪問して現地でのビジネスの概況を調査することも多く、大学院で取り組んだ調査スキルが活かされています。仕事で大切にしていることは、企業がこれまで開拓してきたフィールドとこれから進もうとする海外のフィールドの双方をしっかりと理解し、企業の将来を見据えてサポートすることです。そのために、弁護士や税理士、中小企業診断士などさまざまな専門家と連携し、多角的な視点からよりよいサポートを追求しています。

大学院では、後継者不足が深刻化する中小企業の課題解決に貢献したいと考え、産業集積地域の中小企業経営者の方々にお話を伺いました。また、中小企業の将来について考える「事業継承塾」への参加や、先生の研究サポートとして中国の日本企業を訪問する機会もいただきました。多くの経営者の声を聞き、日本の中小企業の未来について考え抜いた経験が、現在の仕事で経営者の思いに寄り添いサポートする力になっています。

日本の企業の現状や海外進出の現状を自分で見て聞いて研究したい人にとって、経営学研究科は最適な環境だと思います。



河野 広夢さん 2019年3月経営学研究科  
博士課程前期課程修了  
立命館アジア太平洋大学 国際経営学部卒業  
独立行政法人中小企業基盤整備機構に勤務

修士論文テーマ：産業集積、サプライチェーンと事業継承問題  
—大阪機械金属加工業の中小企業を対象に—

### ■ 主な進路・就職先 (2015~2019年度)

秋田中央税理士法人、イオンデイトール(株)、(株)池田泉州銀行、NECソリューションイノベータ(株)、(株)オプト、京セラドキュメントソリューションズ(株)、(株)JTBグローバルマーケティング&トラベル、JBCCホールディングス(株)、(株)ジンス、(株)セブーン・イレブン・ジャパン、ソフトバンク(株)、(株)中国銀行、(株)テクノスジャパン、デロイトトーマツコンサルティング合同会社、(株)東芝、東リ(株)、独立行政法人中小企業基盤整備機構、(株)ニトリ、日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)、パナソニック(株)、(株)ビジネスコンサルタント、(株)ビックカメラ、(株)ファミリーマート、富士ソフト(株)、富士通(株)、(株)船井総合研究所、(株)三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ国際投信(株)、明治安田生命保険(相)、有限責任あずさ監査法人、(株)リクルートホールディングス、その他外国企業、立命館大学大学院博士課程後期課程進学

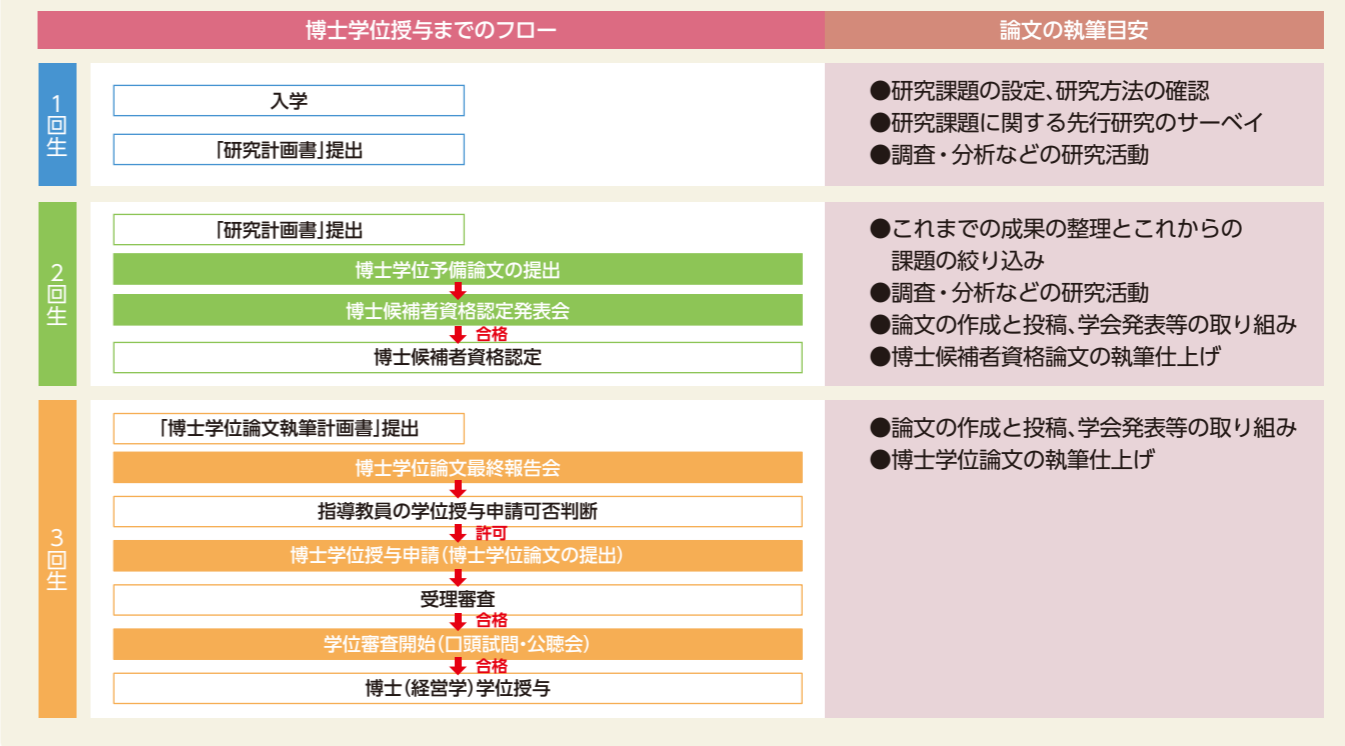
## 後期課程における学びについて

### 高度な研究能力を身につけた研究者を養成

後期課程では、指導教員の指導のもと、特別研究12単位を単位取得するとともに、前期課程における研究を継続して研究論文を執筆し、学会誌への掲載や、学会での報告などによって深化させ、最終目標として博士学位論文を仕上げ、課程博士の学

位を取得することとなります。

自立した研究者として研究活動を行うに必要な高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続できる研究者を養成することを目標にしています。



## Voice 3

### 「デザイン態度」を育み、次世代人材を育成

大学院ではデザインマネジメントや経営戦略について研究し、現在は東洋学園大学の現代経営学部で経営学を教えています。デザインマネジメントは近年世界中のビジネス現場で注目されている分野であり、デザインの考え方は、これまで直接デザインが関わってきた仕事以外でも様々な場面において有用であるということがわかってきています。ものづくりの現場においても、わかりやすい機能性だけでなく人々が感じる感情的な価値を取り入れることが必要になってきています。こうした製品やサービスを生み出すためには、デザイナーが創造性を発揮できる環境をマネジメントすることも必要ですが、デザイナー以外の人々が、答えがない課題に取り組むことを楽しみ、固定観念にとらわれずに新しい枠組みを創造する姿勢である「デザイン態度」を身につけることが重要です。

こうしたデザインとビジネスの思考を学生たちに身につけてほしいと思い、現在の仕事では、デザイン態度を鍛える実践的な取り組みに挑戦しています。大学院でデザインマネジメントの先進国であるイタリアでの共同研究プロジェクトに参加し、デザインの地域性や多様性を学んだ経験も、私の研究に活かされています。



安藤 拓生さん 2018年10月経営学研究科  
博士課程後期課程修了  
立命館大学 経営学部卒業  
東洋学園大学 現代経営学部 専任講師

修士論文テーマ：プロフェッショナルとしてのデザイナーの持つ  
デザイン態度(Design Attitude)の探求的研究



## Topics 1

# 世界に広がる研究フィールド

経営学研究科では、経営環境のグローバル化に伴い、研究フィールドのグローバル化を進めています。海外大学との共同研究の実施や海外調査、英語論文作成の支援など日本国内にとどまらない研究環境の整備が進められています。

### ■博士課程前期課程 北京大学での海外共同研究プログラム

経営学研究科は「社会の要請に応え、正義と倫理をもち、グローバル化する社会の中で組織のリーダーシップを発揮しうべき人間の育成」を活動の目的に掲げています。北京大学哲学研究科と連携した本プログラムも、国際的にもトップレベルの研究を行う優秀な大学院生の育成のため、彼らを協定校である北京大学に派遣し、経営倫理に関する共同研究を行うものです。2019年度は8月に現地で約2週間の学習を行いました。経営倫理の講義に加え、北京市内の企業と連携したワークショップを実施し、共同研究発表等も行いました。また、本プログラムは「特殊講義Ⅳ(経営倫理)」として開講していることから、事前・事後講義も行うことで、スムーズなプログラム遂行を図ることができ、また、現地プログラム終了後に北京大学での貴重な経験をフィードバックすることができました。プログラムに参加した院生は、これらの経験をそれぞれの研究に活かし、質の高い修士論文の作成につなげることができました。



### ■博士課程後期課程 国外共同研究プロジェクト

昨今、企業・組織等の経営戦略において重要視されている「デザイン・マネジメント」領域を擁する経営学研究科では、「デザイン・マネジメント」研究の牽引役であるイタリアのミラノ工科大学と立命館大学の間で包括協定を締結し、共同研究プロジェクトを実施しています。

2017年度から2018年度にかけて、経営学研究科博士課程後期課程院生2名がミラノ工科大学デザイン研究所および経営工学研究所にて1ヶ月～2ヶ月の共同研究を実施。ミラノ工科大学研究者との連携のもと、博士論文執筆に向けた調査・分析、研究交流を行いました。また、本共同研究プロジェクトは「立命館大学大学院博士課程後期課程国外共同研究奨学金」に採択されており、研究費用および渡航・滞在費用として平均して50万円が院生に対して補助されました。



#### ■主な支援制度 ※記載内容は過年度実績。年度によって支援制度が変更される場合がありますのでご了承下さい。

- ・大学院博士課程後期課程国外共同研究奨学金：20万円～80万円  
※金額は期間・地域によって異なる ※年度ごと採択プログラムのみ
- ・大学院博士課程前期課程研究実践活動補助制度：1.5万円～20万円  
※金額は期間・地域によって異なる ※年度ごと採択プログラムのみ
- ・英語論文投稿支援制度(院生)：英語論文校正費(上限3万円/1件)、英語論文投稿費(上限5万円/1件)
- ・博士課程前期課程学生会奨学金：国外発表奨励(10万円/1回 各年次1回上限)  
※支給回数上限詳細については募集要項参照
- ・博士課程後期課程学生会奨学金：国外発表奨励(10万円/1回 各年次2回上限)  
※支給回数上限詳細については募集要項参照
- ・海外スタディ参加補助(2万円～4万円/1回 各年次1回上限)  
※金額は期間によって異なる

他

## Topics 2 超創人財育成プログラム

立命館大学では、2019年度より大学院横断プログラム「産学融合によりアクティブライフ社会を創する人財育成」(以下、超創人財育成プログラム)を開発しています。

このプログラムは5年一貫制(博士課程前期課程2年間+後期課程3年間)の教育課程において、①アクティブライフ研究領域(ICT・健康関連分野)の理論と実践、②企業との連携教育による社会実装、実行力および問題解決力の獲得、③グローバルな視野の拡大や外国語運用能力の向上、④異分野・異世代との関わりを通じた、問題発見力、俯瞰力や柔軟性の獲得により、アクティブライフ社会の創出にかかわる新しい知識・技術・価値・スタイルの提案と事業化を図ることができる人材の育成を目指すものです。

経営学研究科も本プログラムに参画していますので、興味を持たれた方はぜひ本プログラムWebサイトをご参照下さい。



超創人財 プログラム 検索



### ■経営学研究科専任教員・研究分野一覧

氏名・職位	研究テーマ・概要
東 健太郎 教授	社会・環境情報開示の動機に関する研究 コーポレート・フィランソロジーによる災害対応 CSRディスクロージャーが株価に与える影響
池田 伸 教授	ビジネスモデル研究、とくに小売業態・クリエイティブ産業に関する研究、企業統計の成立・利用に関する研究
石川 亮太 教授	朝鮮半島の経済史・経営史
石崎 祥之 教授	観光を中心としたサービス産業についての研究
猪口 真大 教授	新興国・途上国における金融システムおよび国際資本移動に関する実証分析
大浦 啓輔 教授	コストマネジメントおよび業績管理システムについての実証的研究
小沢 道紀 准教授 (後期課程のみ)	サービス産業におけるマーケティングの課題
金森 絵里 教授	エネルギー事業の会計、イギリスの会計士
菊盛 真衣 准教授	マーケティング、消費者行動論 ・クチコミと社会的相互作用 ・オンラインクチコミの効果
木下 明浩 教授	ブランド・マーケティング、小売マーケティング
金 昌柱 教授	小売戦略、国際マーケティング、営業管理
桐畑 哲也 教授	アントレプレナーシップ、アントレプレナーファイナンス、知的財産マネジメントの研究
黒木 正樹 教授	ベンチャービジネス論、中小企業論、起業家論
肥塚 浩 教授 (後期課程のみ)	現代企業の経営戦略・組織研究
小久保 みどり 教授	リーダーシップとワーク・モチベーション、非正規従業員の雇用環境と働き方、若者のキャリア開発
小島 愛 教授	非営利組織のマネジメント
後藤 智 准教授	構造化理論を用いたデザイン・シンキングのモデル化
小林 磨美 教授	金融システムと企業行動のミクロ経済学的理論分析
近藤 宏一 教授	サービス・マネジメント論の理論的検討と応用、交通経営論
佐藤 典司 教授	デザインマネジメントおよび知識・情報価値
佐野 宏樹 准教授	・半導体企業の技術共有の問題に関する研究 ・小売・製造企業の在庫回転率に関する実証研究 ・ブログ記事をもとにした観光サービス・オペレーションに関する研究
瀧 博 教授	公認会計士監査の総合的な研究
田中 力 教授	地域統計分析の方法に関する研究
田中 幹大 教授	ものづくり中小企業の技術経営
谷川 智彦 准教授	職場におけるダイバーシティとパフォーマンスとの関係性、トップ・マネジメント・チームの構成が企業戦略及び企業業績に対して与える影響

氏名・職位	研究テーマ・概要
種子田 稔 教授 (後期課程のみ)	プロスポーツビジネスを中心としたスポーツビジネスのケーススタディによるビジネスモデル研究
寺崎 新一郎 准教授	多文化社会のマーケティング方略
徳田 昭雄 教授	企業システム、産業システム、経営戦略の研究
永島 正康 教授	グローバル・サプライチェーンに関する研究
中村 志保 准教授	日本企業の国際人的資源管理
中村 真悟 准教授	各国の産業技術競争力に関する研究、静脈産業の技術と経営に関する研究
西岡 正 教授	我が国中小企業・基盤技術産業の実態と戦略方向性
西谷 順平 教授	会計基準の経済分析
播磨谷 浩三 教授	金融機関・金融市場を対象とした実証分析、産業政策の効果に関する実証分析
堀井 悟志 教授	戦略経営における管理会計制度の構築
松浦 総一 准教授	利益操作・税務計画に関する実証的研究
三谷 英貴 教授	資本市場とコーポレート・ファイナンスとの間に存在する動態関係の実証的解明
宮田 幸子 教授	途上国のビジネス・経済活動の実証研究、マイクロデータによる開発ミクロ計量経済分析
守 政毅 教授	華人企業の経営戦略に関する実証研究
森 祐介 准教授	企業の境界問題、情報探索・共有と組織内・組織間距離についての理論分析
守屋 貴司 教授	外国人留学生・従業員のキャリア形成に関する研究、組織開発・組織文化づくりによる地域活性化に関する研究、日本企業の人的資源管理と労使関係に関する研究
八重樫 文 教授	メディアデザイン、デザイン・ドリブン・イノベーション、デザイン・マネジメントに関する研究
山崎 敏夫 教授	日米独の企業経営の比較史研究
山崎 文徳 教授	製造業における製品・製造技術と市場構造・分業構造に関する研究
横田 明紀 教授	企業情報システムの導入・運用管理に関する研究
吉田 満梨 准教授	マーケティング行動と製品市場動態に関する研究
善本 哲夫 教授	ものづくり経営および企業システムの研究
依田 祐一 准教授	顧客価値を創造するビジネスシステムとそれを支える情報システムへのマネジメントに関する研究
劉 慶紅 教授	経営倫理、日系企業の中国ビジネス及び中国企業の海外進出に関する実証研究
BERNDT Enno 教授	日本大企業における企業統治・経営戦略・組織文化の変化
RAUPACH SUMIYA JORG 教授	再生可能エネルギーと地域経済
SCHLUNZE ROLF DIETER 教授	異文化経営とダイバーシティ・マネジメントの研究